

行政書士試験(本番試験)の解き方

行政書士試験の合否判定基準

- ・満点300点の内、6割以上の点数
- ・法令等で5割以上の点数
- ・一般知識で4割以上の点数

行政書士試験の出題科目と出題数、配点について表にして整理してみましょう。

【法令等五肢択一式】

出題科目	出題数	配点
基礎法学	2問	8点
憲法	5問	20点
行政法	19問	76点
民法	9問	36点
商法	5問	20点
合計	40問	160点

【法令等記述式】

出題科目	出題数	配点
行政法	1問	20点
民法	1問	20点
民法	1問	20点
合計	3問	60点

【法令等多肢選択式】

出題科目	出題数	配点
憲法	1問	2点×4=8点
行政法	1問	2点×4=8点
行政法	1問	2点×4=8点
合計	3問	24点

【一般知識】

出題科目	出題数	配点
政・経・社	7問	28点
情報	4問	16点
文章理解	3問	12点
合計	14問	56点

行政書士試験は3時間で計60問を解かなくてはならない試験です。つまり、単純計算で1問にかけることのできる時間はたったの「3分」です。時間的にはかなりの厳しさを求められる試験ですので、合格を勝ち取るためには効率的な解き方が必要です。

ここでは、如何にして行政書士試験(本番試験)を効率的、効果的に解くかをお話していきます。

まず、法令科目の科目別の配点を確認してみましょうか。

科目	配点合計
基礎法学	8点
憲法	28点
民法	76点
行政法	112点
商法	20点
合計	244点

法令科目244点中、民法と行政法が188点(8割近い)を占めていることがわかりますね。ここから、民法と行政法がどれだけ重要かということが分かります。

大抵の場合、試験勉強は民法と行政法が中心となるかと思えます。憲法・商法は後回し…という方が多いのではないのでしょうか。

問題は自分が得意な科目から解いていく方がいいと思います(集中力は終盤になるにつれて落ちていきます)私の場合、不得意な科目があまりなかったため、1問目から順番に解いていきましたが、人によっては記述式からという人、一般知識から解く人様々ですが、私は一番得意な科目

から解いていくことをお勧めしたいです。

さあ、ここからが本番となります。

これから紹介する本番試験の解き方は私が実際に行った方法となります。当然、やり方が合わない人もいますので、参考程度にさせていただきたいと思います。

行政書士試験…とにかく時間との戦いといっても過言ではありません。
1問あたり3分…記述式なんて3分で解けるはずありません。
いかに時間を有効に使うかこの点が重要になってきます。

まず、最初に重要なことを言います。

それは、この試験は余計な問題を解いている暇はないという事です。
先にも言いましたが、この試験は時間がありません。無駄なことをしている余裕などあるはずありません。効率よく時間を使い、問題を解くには問題の優先順位をしっかりと付け、それに従っていくことが重要です。

【具体的な方法】

1、各問題は1番の肢若しくはアの肢から見ていって構いません。しかし、上から順番に解いていった結果、途中で自分なりに正解であると確信を持てる選択肢が見つかったらその時点で解答し、次の問題に移ります。残された肢はこの時点では見ません。
しかし、残された肢は見えていないという事を分かるようにするために肢番号の横にレ点を付けておきます。これで見えていない肢の分、まず時間が短縮できるわけです。

2、逆に自分が見た事もないような論点の問題が出てきて、手も足も出ないようであれば、瞬時に判断してその問題は飛ばします。分からない問題はいくら考えても分からないんです。貴重な時間を分からない問題に使ってははいけません。

上記の2つを使って問題を一通り解いていきます。(大抵の場合、かなりの時間が余ります)

しかし、ただ解くだけではありません。その際にやることがあります。

全ての問題に対して、以下の表を参考にして自信のレベル付けをしていきます。

絶対正解してる	☆
おそらく正解してる	○
おそらく間違ってる	△
全然分からない	×

この表にあるように、問題を解き終わったら、問題番号の横にでも☆や×等のマークを付けていきます。

そして、全ての問題を解き終わった段階で☆の数を数えます。この段階で☆の数が合格基準点をクリアしているのであれば、後は寝ていてもかまいません(あし切りは注意して採点して下さい)

※記述式については、自己で採点することは難しいので、そこは今までの模試等による感覚に任せるしかありません。

しかし、もし☆の数が基準点に足りていないのであれば、

- 1、○の問題を☆に変える努力
- 2、△の問題を○に変える努力

をできればこの順番で行っていきます。☆と○の問題を増やしていくことが重要です。(できれば☆)残された時間は上記の2つの作業に死ぬ気で集中し、☆と○の数を合格基準点まで増やしていきます。(☆の数が基準点に達するのが一番好ましいですが、無理ならできるだけ○を増やしていきます)

それができ、合格がほぼ確実だとなったら、×の問題をやるか☆の問題のレ点を付けた見えていない問題をやり、合格の確実性を増していきます。

(☆と○の数が合格基準点に達していないのに×とレ点の問題をやってはいけません)

ただ闇雲に問題を解いていくより、このような方法を用いて解いていくことにより効率的に時間を使う事ができます。

行政書士試験はただ単に法律や一般知識の知識量が多いただけでは解くことができない試験です。

試験に合格するためには`試験を解くコツやテクニック'が必要となってきます。

知識+テクニックが試験合格のカギとなるわけです。

では分かりやすく箇条書きでおさらいします。

- 1、問題は自分の好きな順番で解いていってもかまいません。
- 2、問題は正解確実だと判断した段階で次に移ります。
- 3、見た事もない論点の問題は瞬時に判断し、飛ばします。
- 4、問題全てに自信のレベル付けを行い、マーク付けをしていきます。
- 5、全て終わったら、☆の数を数え、基準点に達しているか確認します。
- 6、☆が基準点に達していないのであれば、○を☆、△を○に変える努力をします。(死ぬ気で)
- 7、そして今度は、☆と○の数を数え、基準点に達しているか確認します。
- 8、☆と○が基準点に達していないのであれば、△を○に変える努力を続けます。
- 9、☆と○が基準点に達したのであれば、×の問題とレ点の問題に着手し合格の確実性を高めます。

以上の流れが試験合格に向けた**私なりの解き方テクニック**です。私はこの解き方で合格を勝ち取りました。是非、模擬試験等で実践してみてください。
やり方、解き方は人それぞれですが、参考までにご紹介させていただきました。

健闘を祈ります！

平成25年11月3日改訂 管理人 安居寛文